

葛野 洋明

年末年始も、これから始まる毎日も …………… 1

姜 暁艶

阿弥陀さまからいただいた処方箋 …………… 11

麻布 明德

なぜ、お正月はおめでたい? …………… 21

本文中、『浄土真宗聖典(註釈版)第二版』は『註釈版聖典』と略記しております。

表紙絵・挿絵／羽尻利門

年末年始も、これから始まる毎日も

葛野 洋明

●年末・年始の有名なお言葉

本願寺の年末年始において、有名なお言葉が残されています。年末の礼には「信心しんじんをとりて礼れいにせよ」(『註釈版聖典』一三三七頁)、年始には「念仏ねんぶつ申まうさるべし」(『註釈版聖典』一三三二頁)、どちらも本願寺第八代宗主であった蓮如れんにょ上人じょうにんのお言葉です。

蓮如上人が幼かった頃の本願寺は、誰もお参りする方がいないような、さびさびとした様子でした。上人が本願寺を継がれてから、たくさんの

方がお参りする本願寺へと大きく変わりました。

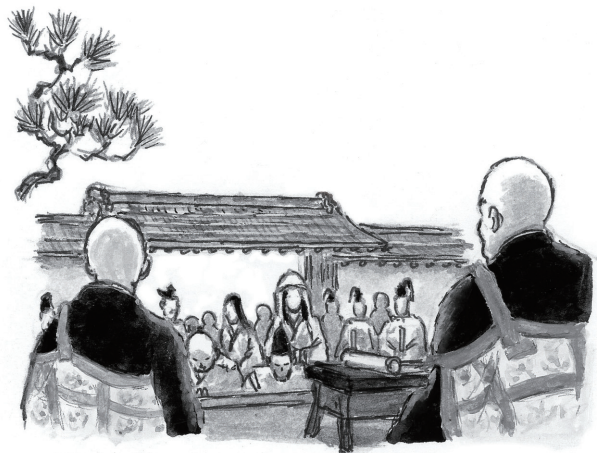
そんな本願寺のある年の年末です。その年最後のご縁に、大勢の方がお参りになりました。

蓮如上人が、お参りの方に、

「どうしてこんなに多くの方々がお参りになられたのかな？」

とお尋ねになると、

「口頃お聞かせいただくご法話が有り難く、そのお礼に。また今日が



今年最後のご縁と聞いて、今日なら蓮如上人にお目にかかれると思い、年末のお礼を申すために、みなお参りしたのです」

との答えがありました。その時に蓮如上人がおっしゃったのが、先の「信心をとりて礼にせよ」というお言葉でした。

またお正月の一月一日にお参りされた、いつもよく浄土真宗のお救いを聴聞されている方に、蓮如上人がおっしゃったのが「念仏申さるべし」というお言葉だったのです。

このように年末には「それぞれがご信心をいただいでくださいよ」、また年始には「お念仏を称となえましょう」とおっしゃったのです。

そこには、いったいどんな思いが込められていたのでしょうか。

年末年始のさまざまな伝統行事は、昔とはずいぶんと変わってきてきました。それでも年末年始の数日間には、いつもの毎日とは異なった趣おもむきがあります。挨拶ひとつとっても、

「今年も一年ありがとうございました。また来年もよろしくお願ひします。どうぞ良い年をお迎えください」

「明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします」などと、あらたまった言葉を交わします。

それでは蓮如上人は、このような年中の日常とは異なった、特別な年末年始の時だけに、「ご信心をいただいでくださいよ」「お念仏を称えましょう」とおっしゃったのでしょうか。いいえ、平生へんぜい普段の毎日にも信心をいただくこと、お念仏を称えることを、再三お勧めになっています。

それは、年中の日常的な毎日も、年末年始の非日常的な一日も、阿弥陀さまのお救いのまったただ中だからです。

平凡な毎日も、特別な一日も、私の人生のいかなる時も、阿弥陀さまはこの私に「必ず救う、どんなことがあっても心配はいらない、安心して歩んでおくれ」と、今も至り届いてくださっているのです。

だから蓮如上人は年末年始にお参

